

力強く雄武町民センター前をスタートするオホーツクサイクリングの参加者たち=9日



北海道新聞

発行所
北海道新聞社
郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
© 北海道新聞社 2005

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購読申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

212キロ、銀輪躍動

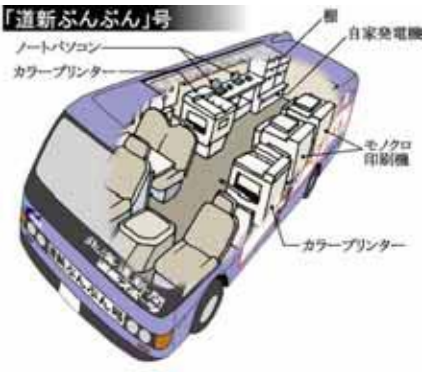
オホーツクサイクリング開幕

オホーツク海沿岸を縦断し網走管内雄武町―常呂町―斜里町間二百二十キロを銀輪で駆け抜ける「第二十四回インターナショナル オホーツクサイクリング2005」(主催・実行委、北海道新聞社、日本サイクリング協会)が開幕し九日、全国から集まったサイクリスト約千人が、いっせいにスタートを切った。初日の行程は常呂までの約百三十キロ。参加者は風を切って、力強くペダルをこいだ。

八日には、参加受け付け「出場者を代表して斜里・朱やミーティング、開会式などが出発点の雄武町民センターで行われた。事故防止に向けてマナーを全員で確認したほか、開会式では、

速印刷機などを備え、モノクロA3判なら一時間で最高一万枚を印刷できま

「道新ぶんぶん」号 各地で大活躍!



この北海道新聞号外「オホーツクサイクリング2005記念号」は、北海道新聞社の取材・宣伝車「道新ぶんぶん」号によって制作されました。ぶんぶん号はマイクロバスを改造して昨年夏に導入。発電機やパソコン、カラープリンター、小型高

会式後の前夜祭では、オホーツクの海の幸がふんだんにふるまわれた。九日午前七時三十分、いよいよ同センター前をスタート。この日午前七時現在、雄武地方の気温は一・二・二度。雲が垂れ込め肌寒い天候となったが、参加者は力走。第一チェック地点のコムケ湖キャンプ場で昼食をとり体力を回復させ、常呂へ向かった。二日目の十日は常呂からゴールの斜里町まで七四・五キロを走る。

事件、事故や各種の催し、NIE(教育に新聞を)活動の出前講座などに札幌から出向き、号外やイベント新聞を発行しています。昨年十月の新潟県中越地震の際は、新潟日報社の要請で現地入りし、震源に近い長岡市、小千谷市などの避難所を巡り、生活情報やインタビュによる「こだけ新聞」を発行し、被災者を元気づけました。オホーツクサイクリング記念号は写真を主体に編集しました。思い出がさらに膨らむことを願い、お届けします。